

この冬は雪が少ないせいか、^{おうちだに} 榑谿を歩く人が多い。この榑谿は市民の憩いの場として知られているが、地形の特色が歴史上の出来事に深く関わっていると考える人はそう多くは無いと思われる。

榑谿の地形を特色づけるものは北に久松山、南に天神山（源太夫山）、その奥部（東）に本陣山（太閤平）が位置し、この^{さんざん} 三山を結ぶように150^{メートル}前後の丘陵が尾根を連ねていることである。久松山は中生代末に形成された^{かこうがん} 花崗岩が長年の侵食を受けてすり鉢状の山形となっている。天神山は久松山より少し古い時代の火山活動に由来する岩石でできていて、その古い分だけ山の形が複雑になっている。本陣山はそれより新しい新生代第三紀に活動した溶岩に覆われ侵食が進んでいないため、平坦な山頂となっている。

戦国の時代、武将達が鳥取平野を見下ろせ、緊急時に背後の百谷から物資を供給できる久松山に城を構えて国を治める拠点にしたのは当然の



ことと思われる。この地の利を生かした鳥取城の城将^{きつかわつねいえ} 吉川経家と相対した豊臣秀吉は経家以上に榑谿の地形をよく理解していたと思われる。秀吉が陣を構えた本陣山は溶岩による平坦地で労せずして本陣を築くことができ、しかも、この山頂からは毛

利軍が援軍や物資を送り込む賀露港を見渡せ、背後の百谷から送られてくる兵糧を押さえることが出来る軍事の拠点として最適の地形的条件を備えている。また、不思議なことに、本陣山からは久松山が手に取るように見えるのに、逆に久松山からは本陣山が見にくいのである。秀吉はこまでも榑谿の地形を知り尽くした上で合戦に挑んだことと思われるが、榑谿を散策される際には、みなさんもこのようなことを思いながら歩いてみてはいかがでしょうか。

（やまびこ館 館長 ^{ほしみ きよはる} 星見 清晴）

■問い合わせ先 やまびこ館 上町88
☎ (0857) 23-2140



■問い合わせ先
さじアストロパーク
佐治町高山1071-1 ☎ (0858) 89-1011

親子講演会「深海、地底そして宇宙へ」



「しんかい 6500」
「提供：海洋研究開発機構」
たけし 毅さんです。講演会の後半では「フリートーク」を行います。興味深い話が直接聴ける絶好の機会ですので、多数のご参加をお待ちしています。

と き 3月18日(日) 午後1時30分～3時30分

と ころ さじアストロパーク

対 象 者 小学4年生～中学生および保護者

講 師 長沼 毅さん(広島大学助教授)

参 加 費 無料 ※館内展示やプラネタリウムなどをご覧になる場合は料金が必要です。

申 込 代表者および住所、連絡先、参加人数を電話で上記問い合わせ先まで

※前日、17日(土)午後3時から、一般を対象とした講演会「100億人時代のマグロ生産マニュアル」も開催します。



佐治天文台長 ^{こうさいひろき} 香西洋樹の「空の向こうの物語」 Vol.12 ^{こうどうこう} 黄道光

夜空が明るくなってしまった現在では、ほとんどみることができなくなりましたが、太陽の通る道筋「黄道」に沿ってとても淡いボーッと光の帯が見えることがあります。特に春、3月の夕方の西空と、初秋9月の明け方の東空で顕著です。これは、太陽系の惑星が回る平面、黄道面にある微小な星のかけらたちが太陽の光を反射して光る現象です。

黄道に沿って舌状に地平線から立ち上がる様子は、もう一つ天の川が現れたのではないかとさえ感じるほどです。この黄道光として見える光の源は、^{すいせい} 彗星の尾として見えていた固体の微粒子が主である、と考えられていましたが、最近ではどうやら小惑星がお互いに衝突を繰り返しているうちに飛び散ったかけらも含まれているらしいと考えられ始めました。太陽系が形造られる過程では衝突という現象がとても重要な意味を持っており、その衝突で生まれたのが太陽系の惑星たちで、そのときの微小なかけらたちも黄道光の源だというわけです。

StarWorld
見 上 げ て ご ら ん